



塗装だより

横浜塗装職人が送るニュースレター・その1

見積り担当菊池です

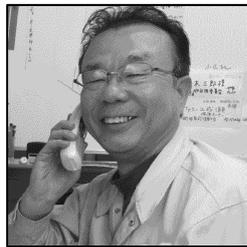
創刊号にはふさわしくない話題かも知れませんが、去年八十五歳で、母親が他界いたしました。着物が好きな人で、たくさんあった中から三重家に持って帰りました。

家人が、洋服ヘリフォームしたいと言い出しまして、洋装店の方（家人の友人です）に拙宅へ来ていただきお話を聞かせていただきました。

派手な金ピカの「御所車」の留袖があり、その柄を胸元に配置してロングドレスという話でしたが、気が進まずブラックフォーマルに。

付け下げで、ワンピースということにあいになりました。

株式会社横浜塗装職人
見積り担当 菊池光也



代表の曾根です

株式会社横浜塗装職人
代表取締役 曾根省吾



記念すべき、「塗装だより」の第一号の発行です。みなさま今月からよろしくお願ひします！

年末は職人が足りないぐらい大忙しでした。

昨年は予想以上に仕事が増大し、見積り担当菊池の対応も追いつかず、正直ご迷惑をおかけしてしまつたこともありました。これからも対応をしっかりとさせる意味でも、益々勉強しなければならぬ日々が続きますが、今後ともこのニュースレターを通して、引き続き皆様とつながりを持たせて頂ければと思います。

毎月、少しでも楽しんで頂けるように志向を凝らして発行させて頂きますので、今後ともよろしくお願ひします！

今月のお客様

- ① 横浜市泉区新橋町
サイディング外壁、コロニアル屋根、シーリング
一級塗装技能士・星野が塗装
- ② 横浜市都筑区すみれが丘
モルタル外壁、コロニアル屋根（断熱キルコート）、ベランダ防水
一級塗装技能士・竹内が塗装
- ③ 藤沢市高倉
モルタル/サイディング外壁、コロニアル屋根、シーリング
一級塗装技能士・川口が塗装

など



今回施工に行かせていただいたのは、横浜市栄区のお宅です。寒さの厳しい季節ではありますが、天候に恵まれたため、作業を滞りなく進めることができました。



こちらの現場では、普段塗装職人のホームページを更新しているウェブ担当も現場研修として同行させていただきました。職人の仕事を間近で見たり、手ほどきをしてもらいながら実際に作業をする体験も。当然ながら、その後に職人が手直しをしていますのでご安心を。

この工事の詳細は次のページ→

横浜塗装職人、今月の施工

栄区の住宅塗装



全ての施工が完了し、足場を解体したあとの外観

今回は昨年12月に施工した、横浜市栄区鍛冶ヶ谷でのサイディング外壁とコロナル屋根塗装の工事例を掲載します。

職人は一級塗装技能士の川口と星野、二級の曽根カズが担当。この現場では、普段パソコンに向かっている私たちウェブ担当も現場研修として伺わせていただきました。

築26年のこちらのお宅の外壁は、塗膜に小さなひび割れがたくさん入っている状態。以前の塗装工事で、下塗りがしつかり乾かないうちに塗料を重ねたのでは？と川口は推測。施工は下塗りで既存の塗膜を固め、濃厚な塗料の計3度塗り、肉厚な塗膜に仕上げてください。

まずは、高圧洗浄機で家全体を水洗いし、汚れや付着物をきれいに落としてから塗替えを開始です。

サイディングボードを留めているクギは、



錆びにくいステンレスではなく、普通の鉄クギ。サビが発生していたので、サビ止めを塗布して、サビ汁の発生やサビの再発を抑制させます。外壁には浸透性シーラーをたっぷり塗布して、弱った塗膜をガッチリ固めていきます。また、このシーラーには下地と塗料の密着性を向上させる働きがあるので、塗膜を剥がれにくくさせます。

下塗りの乾燥後は中塗りです。今回使用する塗料は水性シリコンセララUV。塗膜の劣化を抑制し、汚れに対しても優れた効果を発揮する材料です。塗料を含ませたローラーを縦横に転がして、サイディングボードと、その窪みにもしつかり塗料を塗り込んでいきました。

塗装は美観目的のもちろんありますが、外壁（屋根など）を紫外線や風雨から保護するために行います。厚みのある均一な塗膜に仕上げることによって塗料は長持ちしますし、家の状態を長く保持することにも繋がります。

中塗り後は3度塗りの最終工程・上塗りを重ね、より塗膜の厚みを付加しながら仕上げ、外壁の塗替えが完了しました。

濃厚3度塗りで肉厚塗膜に。

屋根は外壁に比べ、紫外線や風雨を遮るものが少ないため、過酷な状況に置かれていると言えます。やはり肉厚な塗膜をつけていくのですが、水洗いや下塗り材の不足によって、塗膜が剥がれやすくなることもあります。丁寧に屋根に付着したコケや汚れを洗い落とし、塗替えの下準備です。

屋根には、雨押さえや雪止め金具といった鉄部があります。まずはケレン（下地調整）をしてサビや汚れを擦り落とし、同時に細かな傷をつけていきます。鉄のようなツルツルとした面に塗料を乗せても剥がれやすいため、あえて微細な傷をつけることで塗料の食い付きを良くしています。その後は、サビ止めを塗布しました。

屋根材の下塗りはシーラーを染み込ませるように塗布していきます。こちらのシーラーにも接着剤のような働きと、下地を強化させる役割があります。表面が濡れてしっとりしたような状態が仕上がりの



目安。
屋根も外壁と同様に、下塗り後は中塗りです。シリコン塗料を屋根全体にたっぷり塗り込んでいきます。広い面はローラーで行き渡らせませんが、どのような場所でもローラーの入らない箇所や、細かい部分が出てきます。そのような所は、あらかじめ刷毛で塗り込んでおくことで、塗料の剥れやムラを防ぐことができます。

中塗りを終えたのち上塗りを重ね、さらに塗膜の厚みをつけながら、塗料の艶やかな光沢を出して仕上げました。

写真では仕上がりの色をお見せできないのが残念ですが、外壁は淡い紫色、屋根はナス紺色に美しく塗り上げられました。特に外壁は、施工前のひび割れた塗膜を固め、濃厚な塗料をたっぷり重ねて厚膜に仕上げられています。耐久性もしつかり向上されたのではないかと思います。

その他の施工



もう一つの施工事例は、泉区新橋町での外壁塗装から、雨戸の塗替えをご紹介します。

雨戸はまず、紙やすりで研磨して塗料の食い付きを良くしておきます。サビがある場合は、ここで入念に除去。今回はサビの発生が見当たらなかったため、下塗りには塗料の密着度を高めるプライマーを塗布。乾燥後、刷毛目が出ないように塗料をたっぷり塗り重ねて仕上げました。

塗装は3度塗りが基本ですが、傷みが激しい場合は4度塗り、逆にあまり傷みが見受けられない場合は2度塗りにして、塗装箇所全体の耐久性のバランスをとることがあります。

塗装職人の“職人”

月毎に職人のプロフィールと近況、コラムを掲載します。
仕事中は見られない素顔を公開！？



今月の職人

一級塗装技能士、塗装指導員

川口 清 (かわぐち きよし)

高校二年生と中学三年生の息子を持つ川口は、子供が買ってきた三歳のダックスフンドの散歩をするのが楽しみの様子。早寝早起き、朝日も早く起き、新聞屋さんと挨拶を交わしながら仕事に向かう毎日。
今回は、そんな職人・川口の話聞いてきました。



普段は三時に起きて仕事に向かうのですが、お正月は七時まで寝られた事で、起きた時に「二日分寝たな」と思いました。

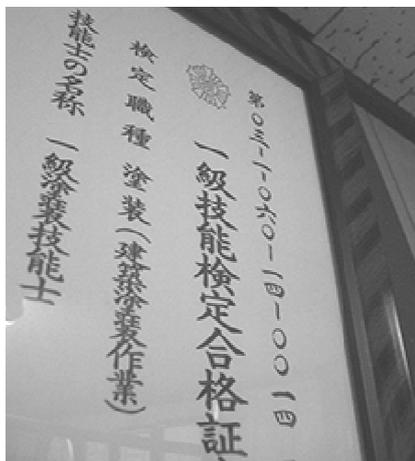
最近、子供がゲームの代わりに買って来たダックスフンドの世話もしています。元々子供の頃にシエパードを飼っていた経験があるので、室内犬では少々物足りず、ドールベルマンを飼おうかとひそかに目論んでいる所です。

カメラが趣味なのですが、最近は仕事もあり、季節もありなかなか行けず。そろそろ川桜の季節なので、休みの日に、愛用のニコンのカメラを持って、写真でも撮りに行きたいなあと思っています。

塗装の豆知識

近年では塗装技能士の資格を持った職人が増えてきましたね。私たち塗装職人の中にも一級塗装技能士、塗装指導員と肩書きを持つ職人が多く在籍しています。

一級塗装技能士とは、厚生労働省が実施する技能検定に合格した人に与えられる国家資格のこと。専門的な学校や訓練を受けずに受験すると、なんと実務経験7年もの月日が受験資格として必要になり、その上で学科と実技の両方で合格点を得た職人だけが名乗れると言う、経験と技術が必要とする取得困難な資格です。試験は年に1回のペースで行われていて、その少ないチャンスをもにしようとする職人はそれぞれ日ギリギリまで学科講習や実技練習などを繰り返して試験に挑んでいます。うちの職人も例外ではなく、去年終わりにあった試験に向けて、若い職人が顔を突き合わせてはあれじゃないこれじゃない、と意見を交わしていました。



ですが、実は塗装職人になるために必要な資格は塗装技能士を含めて1つもありません。

手にペンキとローラーを持って塗装の作業を始めれば、どんな人でも塗装職人になってしまふのです。なのに、なぜこのような難しい試験を受ける人があつとを断たないのでしょうか？

それは受験する人の大半が、自分がどれほどの技術を得たのか知りたい、どうすれば技術を得られるのだろうと頭を悩ませる、熱意や向上心を胸に抱く職人だからです。

ひとくちに塗装職人と言っても、技術や経験はピンからキリまで。私たち塗装職人の中でも半世紀近い月日を塗装に費やしてきた職人がいます。資格を必要としない塗装屋だからこそ、一級塗装技能士のような資格は、もつともつと、と自己の向上を目指す職人を見分けるための、1つの目安にもなります。



水回り、内装リフォーム、屋根吹き替え

ショールーム、チラシ等の宣伝広告、営業マン・・・
リフォーム業者さんは、どれほどの莫大な経費を掛けているのでしょうか？

それは必ずどこかで品質にしわ寄せが行っているということと同じ意味をもちます。当店では今のところ、リフォームの告知はここだけで、経費はほぼゼロに近いです。

さらに職人は、社長の元々の友人、知り合いですので、信頼関係はバッチリ。

他のリフォーム業者さんと同じ施工と品物でしたら、必ず質の高いご満足頂く工事が出来ると思います。

ご計画中の方は、是非お問い合わせください。



職人・馬上（まがみ）



職人・内田（うちだ）

仲の良いご友人、お知り合いにご紹介ください

住宅塗装は、商店街で売っている物とはワケがちがいます。

「紹介したけれども、もし工事が悪かったら・・・」

などと考えてしまうと、とても知り合いなどに紹介出来るはずありません。

どうか是非、あなたが苦勞した業者選びの結果に塗装職人を選び、そしてその工事での満足度を、そのまま周囲の方々にお伝えください。

あなたの「誠意」が通じるような工事を、責任を持って私たちが施工させていただきます。

無料見積りは 0120-382-361

9:00~20:00 土日も営業

株式会社塗装職人

〒240-005

神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町 1235-9

西谷駅から16号線沿いを左にまっすぐ、徒歩10分程。

青い掘立小屋と「日本ペイント」「塗装職人」の看板が目印です。

横浜塗装職人

検索

編集後記

第一弾の塗装日より、いかがだったでしょうか？
少しでもお楽しみいただければ幸いと、女子社員三人で頭を突き合わせて考えさせてもらいました。
本物の職人に直接インタビューなんてするのは初めてで、少しだけ緊張。でも、普段聞けない話も聞けましたし、読んでいただく方に少しでも「へえ～」と思って頂けるよう、がんばりました。
初回と言うことで、探り探りの内容にはなってしまいましたが……少しでも楽しく読んでいただけたなら幸いです。

毎月月末にお届けする予定のニュースレター。
よろしければお友達やご近所の方にも、是非見せてくださいね。

後記担当・S.M